

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 (学)市川学園 市川中学校・高等学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
所在地 〒272-0816
千葉県市川市本北方2-38-1
E-mail daihyo@ichigak-net.ed.jp
Website http://www.ichigaku.ac.jp/
児童生徒数 男子 1371 名 女子 899 名 合計 2270 名
児童・生徒の年齢 13 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校 ESD のテーマである 1. 国際理解教育 2. 理科教育 3. 環境教育を中心にこの 1 年間の活動を報告する。

1. 国際理解教育

- (1) 海外研修(英語による教養研修) ①イートンカレッジ研修(EtonCollege, 7/20~8/7) ②カナダ研修(BC 州 Nanaimo, 7/31~17) ③ケンブリッジ大学研修(CambridgeUniv. 8/17~29) ④オックスフォード大学研修(OxfordUniv. 8/17~29) ⑤ホーストン研修(Harvard, MIT, DartmouthCollege, 8/1~12) ⑥NZ 研修(Otago, Dunedin, 3/11~25) ⑦その他、地方自治体主催の海外研修への参加者多数。
- (2) 校内研修 ①インバークメントプログラム(UC, Harvard の学生による英語教養研修, 8/1~5) ②中 3 英語研修(オリンピック記念青少年総合センター, 5/31~6/2)
- (3) ビバ!留学 JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース 高 1・2、6 名合格。
- (4) World Scholar's Cup 2017 ①東京大会:4 チーム・12 名 ②世界大会(ハワイ):4 チーム・12 名 ③決勝大会(Yale 大学)2 チーム・6 名。
- (5) アガミック・ライティング講座(7/12, 3/5) 英語ライティング力向上に向け清泉女子大井恭子教授を招聘し特別講座を実施
- (6) SSH 国際研修支援 ①タイ王国派遣(7/25~29, 生徒 10 名・教員 2 名) ②タイ王国高校生受入れ(8/30~9/3, 生徒 7 名・教員 5 名)
- (7) ACCU 日タイ高校生 科学技術交流プログラム(2/10, タイ王国生徒 4 名, 教職員 1 名受入)
- (8) 文化祭フェアトレード 有志生徒(ユネスコサークル)による物品販売とポスター発表を実施。千葉大学教育学部主催「人間力を育む千葉 ESD の地域展開(2/18)」成果発表会で発表
- (9) JICA 講演会 中学道徳授業で、各学年別に年間 1~2 回実施

2. 理数教育 SSH 指定第 2 期・4 年目の本年度は以下の活動を行った

(1) 研究開発の課題

探究的な授業と課題研究を両輪とする指導方法を完成させ、国際的に活躍できる課題発見型研究者育成の基盤を構築する。

(2) 研究開発の概要 ①通常授業の改善のために学校設定科目に指定した、探究数学Ⅰ～Ⅲ・AB、探究物理、探究化学、探究生物、プレゼンテーション英語、構造読解について研究を行った。②実験から学ぶ探究的な方向を探ると共に、基礎学力の伸長を促す取り組みを行った。③海外連携については、課題研究を通じたタイ王国プリンセスタウンカレッジとの相互訪問を実施。④中学校においては、前認知を高めるための CASE プログラムの部分導入を実行した。言語教育の推進も行った。⑤課題研究の研究に関しては、課程内容とのリンクを認識させる指導をした。また、課題研究と基礎学力の相関を調べた。⑥卒業生にアンケートをとり成果を評価してもらった。

3. 環境教育

(1) 中学・生物授業での近隣自然観察公園フィールドワークや高校化学授業での環境教育など多様な取り組みを行った。特に高 1 化学基礎ではグループレポートを作成・発表を行った。

(2) 保護者会、エコサークルが制服・学用品などのリサイクル活動を推進。校内でのリユースや途上国への発送を行った。

(3) 化学部が長年に亘る近隣河川の汚染調査活動を継続して行っている。



1 (1) ⑤ハーバード大学研修
(2017. 8. 3)



1 (8) 千葉大 ESD 成果発表会
(2018. 2. 18)



2. SSH 小学生体験講座
(2018. 3. 10)

(2) 活動の詳細

① 活動内容ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度

<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

それぞれの取り組みごとに適宜採択している

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

国際研修は希望者を対象として行っている。特に、研修を通して得られる貴重な経験や知見を最大限に引き出す為の周到な準備に向けた事前研修、その成果の定着と更なる伸長に向けた事後研修の充実をはかっている。

また、ユネスコサークル（市川グローバルサークル＝IGC）を組織し、校外活動（模擬国連、WSCなどの各種コンテスト）やボランティア活動に取り組んでいる。

理数教育は、SSHを基軸として中学1年次より教育課程に組み込んでいる。特に高校2年次には、全国の高校・大学・企業・研究所等との交流を通じて様々な取り組みに着手し成果を残している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

- ④ 前述のIGCを中心に課外活動の一環として様々な活動を行っている。特に帰国生（帰国子女）や海外研修参加者が中心となり各自の経験やそれに共なる様々な知見を最大限に発揮し、国際活動やボランティアに取り組む体制が整ってきた。
- また、本年より活動報告の場として「市川アカデミックデイ」を開催し、生徒各自の様々な取り組みに関する口述発表（講堂でのプレゼンテーション）やポスター発表などを行った。総発表数はプレゼン31件、ポスター発表137件。この日は終日、本校生徒・保護者や外部教育機関の関係者などが多数参観し、質疑応答の機会も多く有意義な催しとなった。



ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

通常の「学校評価」の項目に、国際理解教育や理数教育は組み込まれているが、ユネスコスクールとして特別な評価はしていない。今後、検討していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

千葉県高等学校教育研究会ESD部会に加盟し、定期的に県内の高校ユネスコスクールとの協働的な活動や情報共有をはかっている。
また、市川市ユネスコ協会の定例部会で、市内ユネスコスクール（小学校・高等学校）と共に成果発表などを行っている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

上記、千葉県高等学校教育研究会ESD部会、市川市ユネスコ協会、ACCUなどと交流を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

他校との交流は千葉県高等学校教育研究会ESD部会加盟校との交流が中心である。
本年度、海外研修で各国（地域）のユネスコスクールとの交流を試みたが、交流対象校が見つからず断念した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

すべての教育活動において国際性や環境への意識が高まっている。また生徒の意識も向上し、自発的に外部団体と連携し発展途上国支援への取り組みが行われている。

（3）平成30年度の活動計画

これまで通り「国際理解教育」「理数教育」「環境教育」を主軸にする。特にすべての活動にSDGsを意識した展開を心がけていきたい。